

港に 灯が ともる

上映会+トーク

令和8年3月7日(土)
14:00~16:40(受付13:30開始)

あれから30年——

震災の年に生まれた私と、家族の物語

1995年の震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族の下に生まれた灯(富田望生)、在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は父(甲本雅裕)や母(麻生祐未)からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものに感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。ある日、親戚の集まりで起きた口論によって、気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。そして、姉・未悠(伊藤万理華)が持ち出した日本への帰化をめぐり、家族はさらに傾いていく。なぜこの家族のもとに生まれてきたのか。家族とわたし、国籍とわたし。わたしはいったいどうしたいのだろう。

世代をこえて残る続ける大災害の傷と、少しずつ希望を見出していく心の軌跡を追った、ささやかだけど大切な物語です。

出演：富田望生 麻生祐未 甲本雅裕
監督・脚本：安達もじり 脚本：川島天見
音楽：世武裕子
製作：ミナトスタジオ 配給：太秦

関西に縁のある有志が集い、神戸を本拠地として立ち上がったスタジオ(映画製作会社)。人々が寄り添いながら心を癒すことができるあたたかい社会の実現を目指し、それに貢献する映像作品を届け続けている。

minatomo117.jp ©Minato Studio 2025

話し手：本作医療監修 市立加西病院精神科 久保田 康愛氏
聞き手：本作プロデューサー 安 成洋氏

会場 神戸市医師会館4階大ホール(神戸市中央区橘通4丁目1-20)

対象者：神戸市在住・在勤・在学の方 定員：150名(要お申し込み)

入場
無料

主人公が心身の不調に苦しみ、
それでも「心の傷」とともに生きていく
様子を描いた映画、「港に灯がともる」を上映します。

地域や職場など身近なこころの問題を抱える方を
支えていくために、こころのケアをどうとらえ、何
をすべきか、何ができるのか、この社会をどう変え
ていく必要があるのか。

映画上映後に、より理解が深まるよう医療監修の
久保田氏にお話しいただく時間も設けます。

本事業は、第15回 自殺総合対策拡大会議 神戸自殺総合対策フォーラムの一環として実施しています。



お申し込みについて詳しくは裏面▶